

学生論文特集の発行にあたって



学生論文特集編集委員会
委員長 吉本 潤一郎

学生論文特集は今回で8回目を迎え、情報・システムソサイエティ（以下ISS）の定番企画となったように思われる。本特集は、第1回から一貫して「日々高度化する技術を体系的に学ぶと共に研究の最先端を担っている学生に、その研究成果を論文として発表する場を分野横断的に与え、若手研究者による新しい研究交流を促進する」こと、及び「論文執筆経験が必ずしも十分でない学生に対して、より指導的・教育的な査読を通して研究活動を支援する」ことを目的とし、ISS和文論文誌編集委員会が全員で編集に当たっている。特に、編集作業においては、第一著者が学生であることを念頭において、教育的立場から一般用よりも丁寧、かつ、建設的な査読コメントを著者に返すように心掛けている。その分、査読委員の方々は、ボランティアにもかかわらず、普段以上に多くの時間をかけて査読に取り組みされたことと思われる。その御尽力にこの場を借りて深く感謝申し上げたい。

今回の投稿数は32編となり、前回の43編から減少した。これは、広報活動が十分行き届かなかったことが主な原因と考えられ、委員長として深く反省しているところである。英語による成果発表でないと研究業績として評価されにくい昨今ではあるが、先行研究の十分な調査やデータを基に研究アイデアの新規性や有効性を明解に文章や図表にまとめ、査読コメントに適切にディフェンスするという作業は、言語にかかわらずどの学術論文投稿でも通るべき道である。特に、論文執筆経験がない学生会員の方々には、得意な母国語でこの一連の作業を経験できる場として、次年度以降の本特集を活用いただけると幸いである。

厳正な審査の結果、今回採録となった論文は9編で、

採択率は28%と、これまでの学生論文特集と比べても、一般号と比べてもやや低いものとなった。この数字からわかるように、学生を対象とした特集ではあるものの、査読基準が一般号より甘いということは決してない。また、採択率が低かったとはいえ、今回投稿された論文が総じて質が低かったというわけではなく、アイデアとしては新しさや学術的面白さがあるものの、論文として採択するには信頼性や明解性がわずかに足りないというものがほとんどである。今回は残念ながら不採録となってしまった論文については、今回の査読コメントを参考に修正し、ぜひ一般号に再投稿されることを期待している。

本特集では第2回から、新規性、有効性、信頼性、了解性の少なくとも一つの項目において特に秀逸で、学生としてよく健闘したと称賛に値する論文を秀逸論文として認定している。今回は次の2編の論文を秀逸論文とした。1件目は、「フレーズ・トークン込みNMTモデル及びSMTによる大語彙フレーズ翻訳によるハイブリッド翻訳方式」であり、ニューラル機械翻訳における大規模フレーズ語彙への対応に関する提案がなされ、その有効性が高く評価された。2件目は、「マルチチャネル非負値行列因子分解における階層的クラスタ分析を用いた音源分離性能の向上」であり、非負値行列因子分解による多チャネル音源分離性能を改善するための提案がなされ、その有効性が評価された。

最後に、本特集を発行するにあたり、論文を御投稿頂いた皆様、タイトなスケジュールにもかかわらず丁寧な査読を行って頂いた査読委員の皆様、企画・編集作業に尽力して頂いた編集幹事、編集委員の皆様、ならびにサポート頂いた事務局の皆様にご心より感謝を申

し上げる。今後も本特集が継続的に企画され、若手研究者の支援・育成を支えていくことを期待している。

よしもとじゅんいちろう
吉本潤一郎（正員） 1998年関西大総合情報学部卒。2002年奈良先端大情報科学研究科博士後期課程了。科学技術振興機構CREST研究員、OIST神経計算ユニットグループリーダーなどを経て、2015年より奈良先端大情報科学研究科（現・先端科学技術研究科情報科学領域）准教授となり、現在に至る。ニューロコンピューティング、統計学習、計算神経科学などの研究に従事。博士（工学）。

学生論文特集編集委員会

委員	長 事 員	吉本潤一郎	吉籠市倉合滝長福松	本原立田川	嶋英尚和穂	岳彦明生高忍豊徹	・	横岩小酒戸林福三	川尻向田村浦	智具智慎航雄直元	教子司史介博喜	・	佐太近佐二廣武山	藤田藤藤宮友小隆	智一克雅小隆	和学晃成崇徳萌義	・	姜近佐中福松渡	玄藤藤田井尾	真信明健康哲	浩史夫一孝也
----	-------------	-------	-----------	-------	-------	----------	---	----------	--------	----------	---------	---	----------	----------	--------	----------	---	---------	--------	--------	--------